

親と子の島立ち 里中学校



父「楽しんでござい〜！」

子「楽しんでくるよ！」

里中学校では、子どもたちと保護者、それぞれの島立ちを取材しました。

庵地日風太さんの島立ち

里町でつけあげ店を営み、わが子の島立ちを初めて経験する庵地優さんは、こう語ります。

「子どもが15歳で島を出ることは、生まれたときから決まっていたこと。島立ちに当たって特別に何かを教えたことはありません。洗濯や料理についても日々の手伝いの中で自然と身に着けてきました。昨年までは厳しく育ててきましたが、今は、自信を持って送り出したいという気持ちです。これから親が教えられることはありませんが、自分で気づく学びを経験して欲しいと思います」。

鹿児島工業高校への進学が決まっている日風太さんは、「寂しい気持ちもあるけど、ただ楽しみ。希望しかない」と話してくれました。



息子「由莉美、吹奏楽と勉強がんばって！」

母「あはは」

父「俺にはなんかないの？」

娘「純輝、高校でも柔道で全国行けるようにがんばって！」

小川純輝さん 由莉美さんの場合

鹿児島工業高校に進む純輝さんと神村学園高等部に進む由莉美さんは、男の子と女の子の双子です。

2人は、どちらが兄、または姉ということもなく仲良く一緒に育ってきました。

港に勤務する父親の勝義さんは、「島立ちで一度に2人の子どもたちがいなくなってしまうのは、とても寂しい。島の学校とは違う大きな学校で2人がやっていけるか心配で不安」

一方、母親の麻紀さんは、「2人とも部活動に入るので、見に行くのが楽しみ。しょっちゅう見に行く」と笑顔。

純輝さんは、「新しい人たちと出会えることが楽しみ」、由莉美さんは、「勉強と部活は楽しみ。寮は、時間が決められているから少し残念」と明るい笑顔で話してくれました。

今では父親の勝義さんも娘の応援がなければ勝てなくなった親子の腕相撲。仲の良い親子の姿がここにありました。



父「財産を作って帰ってこい！」

子「結果を残して喜んでもらいたい」

母「寂しいけど自分で決めたことだから」

日笠山航太さんの場合

柔道の推薦で福岡市の沖学園高校に進学が決まっている日笠山航太さんは、「二人の兄が島立ちをしたときは、とても悲しくて寂しかった。今自分の番となり、やっていけるか不安でいっぱい。でも、自分で強い思いを持って決めたことだから毎日の努力で、結果も残して喜んでもらえたらと思う」と話し、父親でお食事処「海聖丸」を営む了盛さんは、「頑張れば、結果はついてくるし、最後には自分に返ってくる。友達や先生という財産を作って帰ってきてくれたら」。

母親の佳代さんは、「一番下の子で、できれば県内に残って欲しいと最後まで反対した。しかも、みんなより一足早く島立ちすることになって。寂しいけど、自分で決めた大事な3年間が先に繋がるようであれば、本人の意思が一番大事なのかなと考えた」と話してくれました。



謝恩会にて

里中学校の卒業式後の謝恩会では、お母さんたちが、子どもの中学校のジャージを着て参加するというユニークなコンセプトの中、卒業した子どもたち、保護者が集結しました。

希望にあふれる子どもたちだけでなく、絆の深さを、物語るような全員でのまぶしい笑顔が印象的でした。

- 里中学校卒業生
- ・日笠山 渚
 - ・庵地 日風太
 - ・是枝 伊吹
 - ・野島 凜
 - ・馬場 萌香
 - ・石原 蓮士
 - ・小川 由莉美
 - ・本 心
 - ・小川 湮央
 - ・石原 大洋
 - ・馬場 遥奈
 - ・日笠山 航太
 - ・西牟田 二海
 - ・小川 純輝